

知的財産の創造、保護及び活用に関する
推進計画（案）の概要
（主要 8 項目）

1	大学における知的財産の創造・保護・活用	1 頁
2	特許審査迅速化法（仮称）の制定	3 頁
3	医療関連行為の特許保護	4 頁
4	知的財産高等裁判所の創設	5 頁
5	偽物対策や水際措置の抜本的強化	6 頁
6	国際標準に対応した特許の取得・活用	7 頁
7	コンテンツビジネスの振興	8 頁
8	知的財産に重点を置いた法科大学院等の設置	9 頁

平成 1 5 年 6 月 2 0 日

1 大学における知的財産の創造・保護・活用

(1)大学の知的財産活動の強化

知的財産の創出

知的財産の
創出を重視し
た研究開発

知的財産の
取得・活用を
評価に反映

ルールの明確化

特許権は
原則として大
学に帰属

営業秘密
の管理

体制・機能の強化

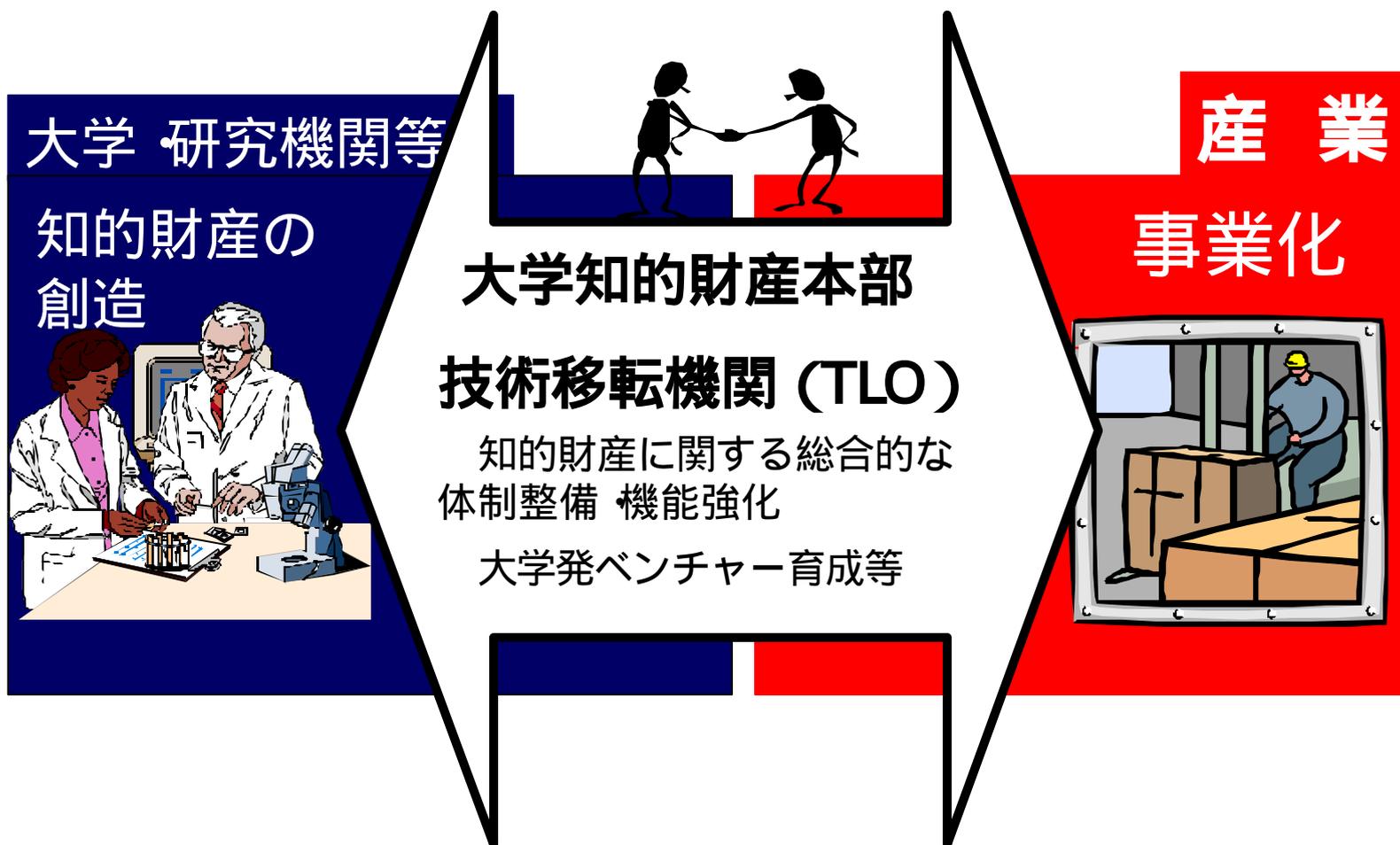
特許関連費用の充実
大学知的財産本部を
設置

技術移転機関 (TLO)
を支援

民間人材 (目利き)
の活用

1 大学における知的財産の創造・保護・活用

(2) 大学等の保有する特許の効果的な活用



2 特許審査迅速化法 (仮称) の制定

課題

大量の滞貨

約 80万件

総合的対策

- 外部人材の活用による任期付審査官の大幅増員()
- 審査補助職員の活用
- 先行技術調査の外部発注

() 総務省 財務省と調整中

世界最高レベルの審査

3 医療関連行為の特許保護

1. 医療特許は「三方一両得」

患者	より先進的な医療を受けられる
医者	患者の期待に応えられる
研究者 企業	医療技術の進歩を促進する

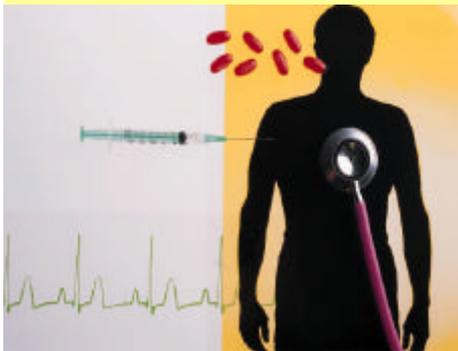


2. 医療特許への心配？

安全性は？

医師の医行為等が特許侵害とならないか？

影響を及ぼさないよう十分配慮する



4 知的財産高等裁判所の創設

1. 目的

判決の統一 (判決の予見可能性確保)

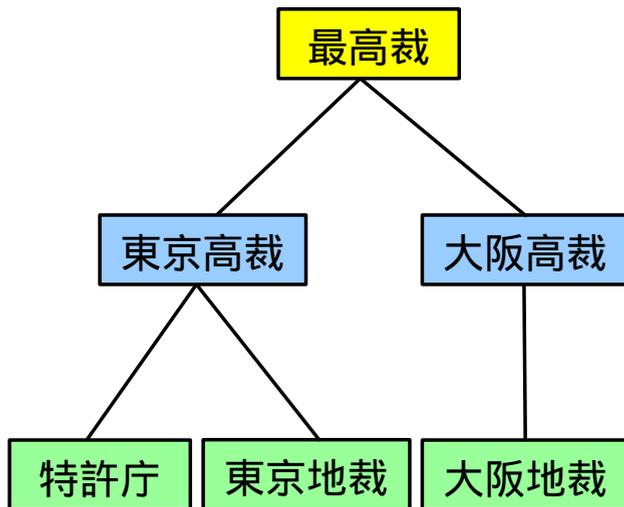
専門性の向上

国内外に対する知財重視の政策表明

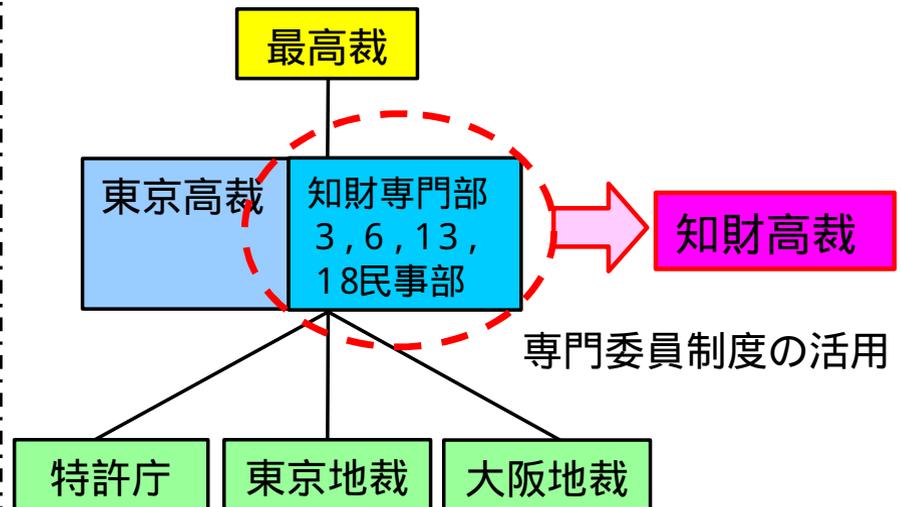
(アジアの中核的知財高裁を目指す)

2. 組織

現状



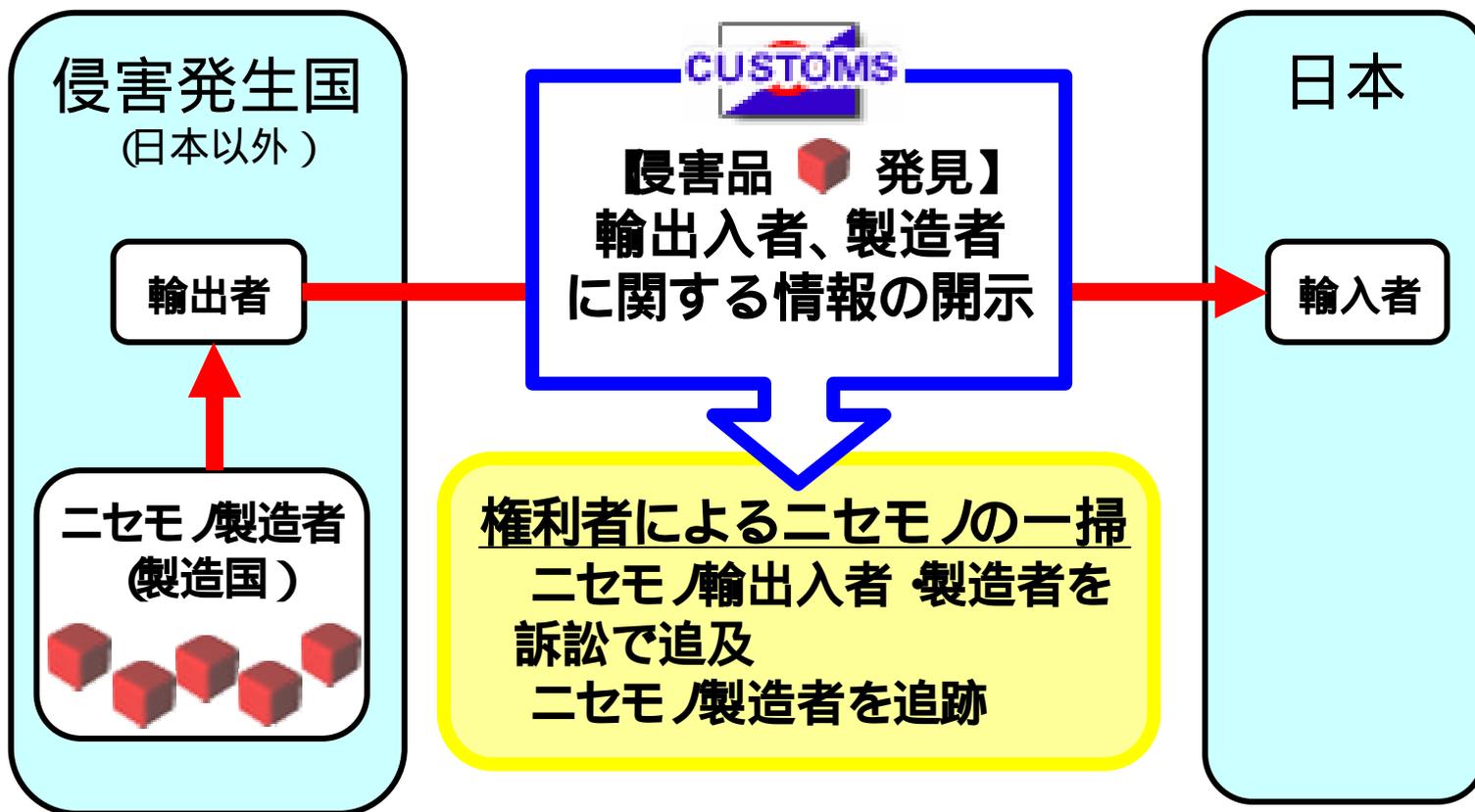
今回の民訴法改正後



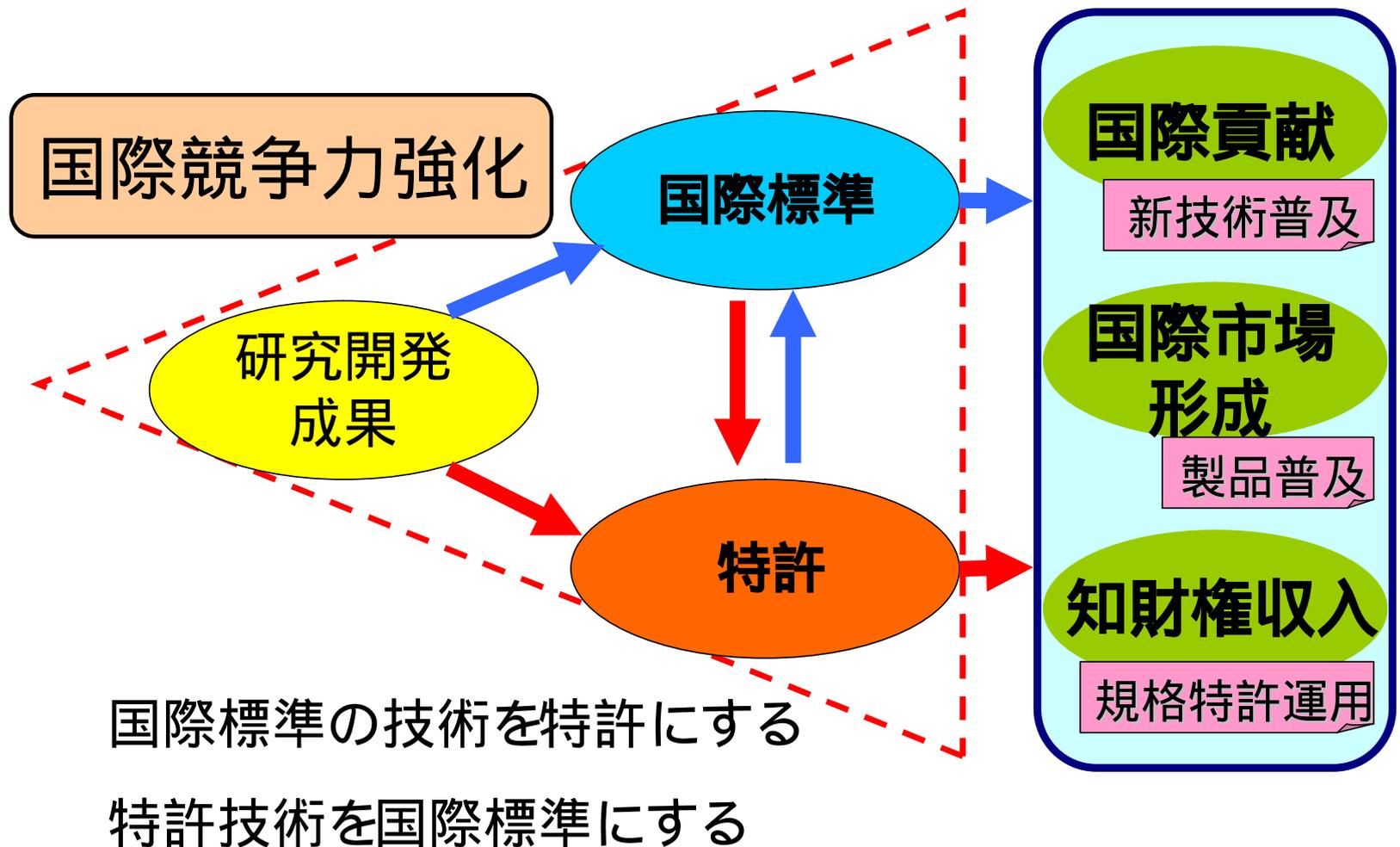
注)東京地裁、大阪地裁は他の地裁と競合管轄

5 偽物対策や水際措置の抜本的強化

< 税関から権利者への情報の開示 >

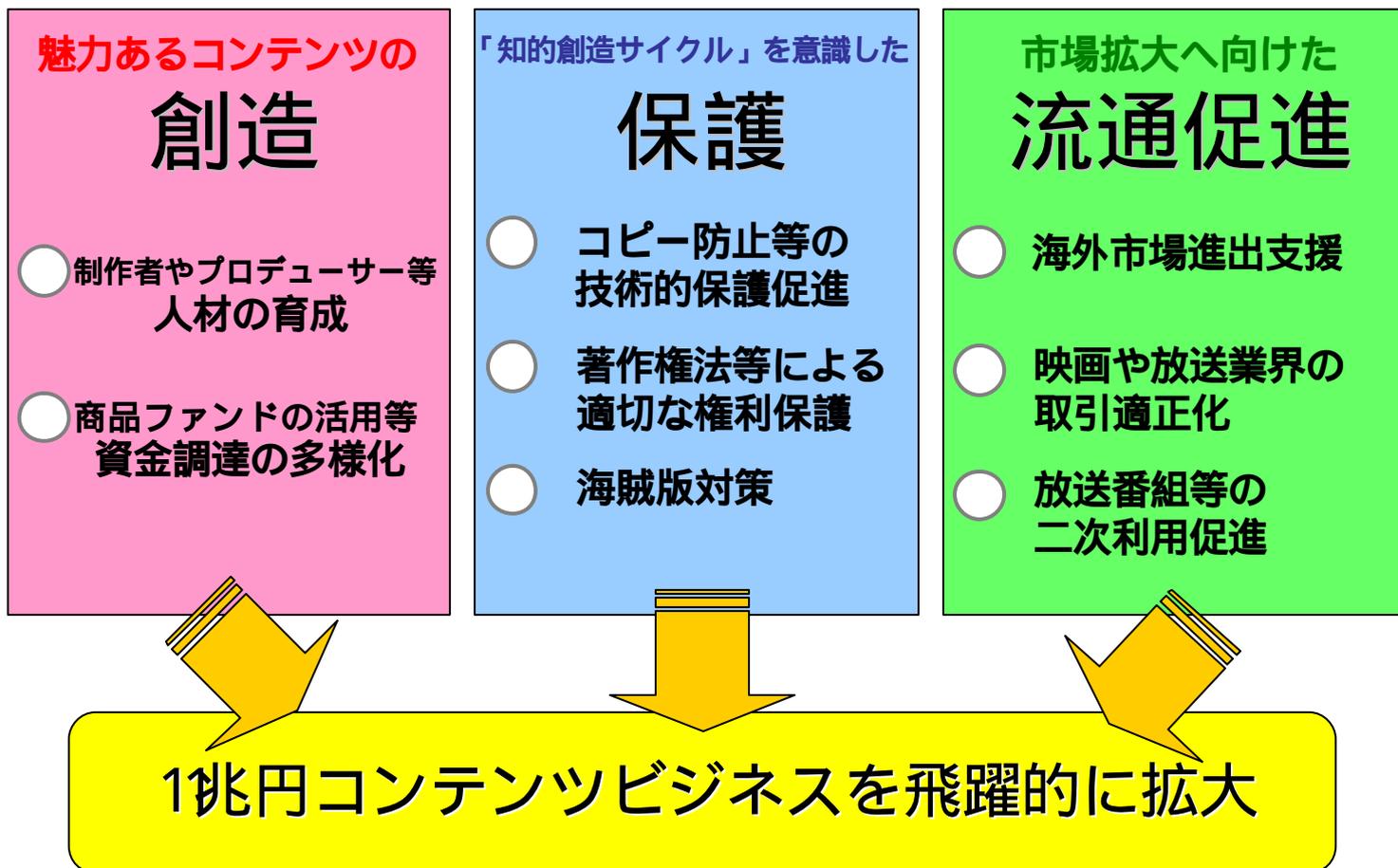


6 国際標準に対応した特許の取得・活用



7 コンテンツビジネスの振興

— 映画、アニメ、ゲームソフトの著作物等による事業の展開 —



8 知的財産に重点を置いた法科大学院等の設置

